

トリリンガル教育により グローバルリーダー育成

京都国際高等学校

「真の国際人育成」のための教育に注力している京都国際高等学校（京都市）。韓国語・英語・日本語のトリリンガル教育を目標に掲げ、語学教育を行っている。



ネイティブ教員による語学学習が魅力だ

「真の国際人育成」のための教育に注力している京都国際高等学校（京都市）。韓国語・英語・日本語のトリリンガル教育を目標に掲げ、語学教育を行っている。

韓国語教育は全コースを対象にネイティブ教員による難易度に合わせた習熟度別クラスでの授業が行われている。同校では卒業までに韓国語能力検定を受験することが義務化されており、試験前には放課後を利用して検定対策補習等も開講している。

一方、英語教育では、週1時間のネイティブ教員による英会話に加え、「English Speaking Contest」を通して発表を行い、英会話の実力を試している。

海外研修や国際交流、異文化教育を通して、異文化理解力や人権意識を高めている。海外研修では、韓国や英語圏

へ語学研修に行くことで日頃の学修の成果を発揮する。多くの生徒に海外研修の機会を与えるために、本校独自の海外研修補助制度や奨学金制度を取り入れている。

語学だけでなくとどまらず、異文化理解にも積極的に取り組んでいる。韓国の大学生を招き、交流を行う「外国人 Global Mentoring」や総合的な学習の時間を利用して、東アジアの平和をテーマに掲げて、1年間を通して調べ学習に取り組み、最終的にポスターセッションの形式で発表する。

少人数教育に重点を置き、生徒と教職員の距離が近い和やかな学校づくりと、生徒一人ひとりの特徴を把握することとで、キメ細かく指導している。教員との信頼関係が構築されるため、生徒側も日常の悩みを気軽に相談する環境が整っていることも魅力だ。

定期考査前には、主要教科を中心とした特別補講を実施。また、学習姿勢や生活習慣の維持を目的として、長期休暇を利用した特別補習と学習合宿を行っている。

3年次には、生徒一人ひとりに対して、進路指導担当教員が一人つくことで、少人数教育の魅力を発揮している。

トリリンガル教育に注力する同校ならではの強みが、日までの不安などに対してもし本にとどまらない多様な進路選択をできる点だろう。海外留学によって生じる、留学後開催しており、国内の進学だけではない、韓国の大学の入試説明会等も実施している。俯瞰的な思考を身につけさせることで、生徒の可能性を広げている。

『大学新聞』に本校の取り組み記事が
掲載されました。(2019年3月10日第165号)